

# 田中地区

(大分県豊後大野市)

計 画 期 間 平成 16 年度～19 年度  
 面 積 4.85ha  
 交付対象事業費 304 百万円  
 市人口 41,281 人 (地区内人口 936 人)

## ポイント

大野町の新たな玄関口として、地域の情報発信や  
 交流人口の受け皿となる拠点施設の形成

## 地区概要

交流拠点施設・商業集積地として整備することにより、  
 地域のポテンシャルアップにつながり、旧大野町の新たな  
 玄関口として中核を形成し地域の情報発信や交流人口の受  
 け皿として機能することが出来る。さらに中心市街地とし  
 て消費拡大だけでなく、多くの出会いやそれによる賑わい  
 を創出することができ地域の活性化が期待できる。

## 目 標

大野町の新たな玄関口として中核を形成し地域の情報発信や交流人口の受け皿として、さらに中心市街地として消費拡大だけでなく、多くの出会いやそれによる賑わいを創出する。

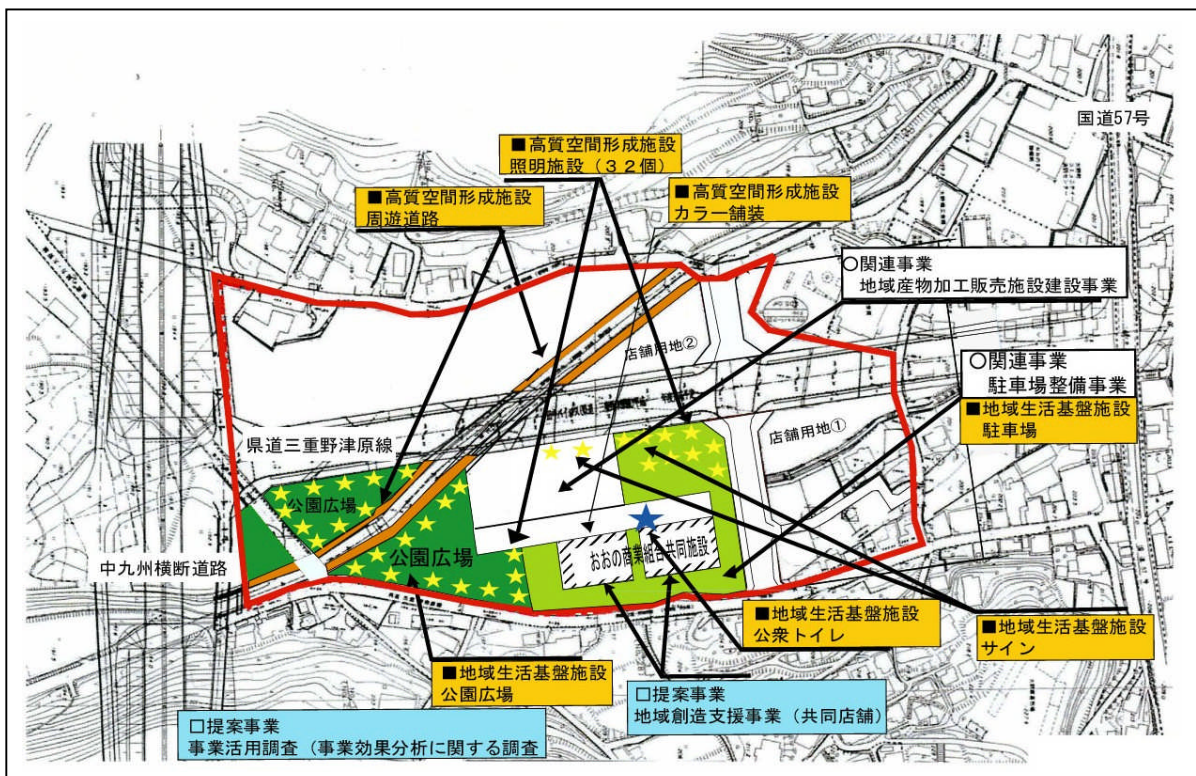
## 指 標

物産館・広場公園・駐車場等田中地区の統一的な整  
 備をすることで交流人口の増や消費拡大、既存の観光  
 施設にも相乗効果で交流人口の増を目標とした。

地域来訪者数	6.1 (H14)	30.0 (H19)
民間商業売上額 (小売り年間販売額)	15.0 (H15)	20.0 (H19)
住民のまちづくりの関心度	17.5 (H12)	60.0 (H19)
まちの魅力満足度	40.0 (H12)	70.0 (H19)

## 事業内容

- 基幹事業 (263 百万円) ・ 駐車場整備 (4,460 m<sup>2</sup>)・ 広場 (6,842 m<sup>2</sup>)・ 情報板 (2 基)・ 周遊道路 (延長 394m、  
 幅員 2m～3m)・ カラー舗装 (延長 122.6m、幅員 3.0m)・ 照明灯 (32 箇所)  
 提案事業 (41 百万円) ・ 共同店舗用地 (3,180 m<sup>2</sup>)・ 事業効果分析に関する調査 (一式)



## 地区の現況と課題

大野町の中心市街地は、居住者の高齢化や県立高校の廃校などで活気が薄れ、商店街も郊外のロードサイド型店舗等の新たな商業立地に伴い、消費者の購買行動が大きく変化しました。商店街の後継者不足や旧大野町の全体的な過疎化の進展に伴い著しい地盤沈下に見舞われ、昭和60年度以降販売店数、販売額ともに減少をつづけており、商店街としての機能や魅力が低下し危機的な状況にあります。

## 基幹事業の特徴

**地域生活基盤施設**・・・駐車場、公園広場、公衆トイレ、サインを整備し、開発地域の基盤となる施設整備を行っている。

**高質空間形成施設**・・・周遊道路、照明施設、カラー舗装を整備し、空間施設の整備を行い賑わいの創出の充実を図っている。

## 提案事業の特徴

**共同店舗用地購入事業**・・・商業集積地の充実を図るため、共同店舗用地を購入し、消費者の利便性を図っている。

**事業効果分析に係る調査**・・・事業評価を外部委託することにより、正確で適正な事業評価を行っている。

## 計画策定プロセス

**ワークショップの開催**・・・「まちづくり委員会」(住民主導型)を設置し、平成9年3月に中心市街地を中心に旧大野町の魅力づくりをまとめた「まちづくり基本計画」を策定、中九州横断道路大野インタ-チェンジ(仮称)周辺を新商業集積地と交流拠点基地として開発を目指すこととした。また平成12年度に、公募による住民グループ「人・夢・自然を創るおおの飛翔会」を結成し、開発地区の土地利用計画や課題について協議を行ってきました。

平成14年度には、「人・夢・自然を創るおおの飛翔会」と「まちづくり庁内委員会」「おおの商業組合」、旧大野町が協同して、旧大野町らしさの創出と旧大野町の玄関口に求められる機能について、まちづくり総合支援事業調査を活用し、検討を行った。また、その検討を受け平成15年度には、まちづくり総合整備事業を活用し道路事業を行ってきました。

**住民参加プロセス**・・・「豊後大野市まちづくり委員会」と「まちづくり関係団体協議会」を実施し、開発地域を総称するネーミング公募、実施内容等に対する協議を行っている。

持続的なまちづくり・・・ぬく森パ-ク関係団体連絡協議会を実施し、施設等の維持管理・運営体制、イベント等について協議している。



開発地域



まちづくりの中核(道の駅おおの)公園広場整備

